

支援学校の教室から 世界へ挑む

SASUKE完全制覇、そしてオリンピックへ

●大阪府立特別支援学校 教諭

山本 良幸 さん 一人間健康学部 2015年卒業

TBSテレビの人気スポーツエンターテインメント番組『SASUKE』に出場すること7回。同局の『究極の男は誰だ!? 最強スポーツ男子頂上決戦』では、並みいるアスリートを抑えて第14回・第15回と連覇を達成。全国に名を知られる存在となった山本良幸さんだが、普段は特別支援学校で子供たちと向き合う保健体育教員としての日々を送っている。教員を目指した理由、SASUKEに懸ける思い、更には2年後を見据えた新たなチャレンジについて聞いた。



▲勤務先の特別支援学校前で



▲学校で教材を作成する山本さん

LEADERS NOW!



▲「最強スポーツ男子頂上決戦2025冬」で2連覇中

●あこがれの舞台「SASUKE」への挑戦

「番組を録画して何度も見ながら、公園の遊具をコースに見立ててSASUKEごっこをして遊んでいました」。山本さんにとって、SASUKEは子供の頃から憧れの舞台だった。しかしその舞台は遠く、何度も応募を重ねた末、2019年に念願の初出場を果たした。「ミスターSASUKE」ことレジェンド・山田勝己さんが主宰するチーム「黒虎」でトレーニングを積みながら、夢を現実のものにした。以来常連選手となり、着実に成績を伸ばし、「完全制覇」まであと一歩に迫っている。

「昔から体を動かすことが好きだった」という山本さんは幼少期から体操クラブに通い、どんなスポーツも器用にこなした。しかし高校時代、陸上部で厳しい練習による心身への負担から胃潰瘍を発症し、1年生で退部。その後は、「内村航平さんのようになりたい」と体操に打ち込み、関西大学では器械体操部の主将を務めた。

●理想の教員に近づくための回り道

もともと体育教員を志し、保健体育の教員免許が取得できる人間健康学部に進学した山本さん。放課後の学童保育で子供たちと接するボランティア活動を通じて、教員という仕事への思いを強くしていった。しかし、自身が理想とする教員になるためには、まだ学ぶべきことがあると感じていた。「人に伝える力や、人と向き合う姿勢を社会に出て身につけたいと考えました」。山本さんは、一旦はハウスメーカーに就職し、営業職として勤務した。

再び教員への道に戻ったのは、社会人4年目を迎えた2018年。退職後、関西大学の科目等履修生として教職課程を履修し、保健体育の教員免許取得を目指した。学びと並行して、手話や点字サークル、YMCAの水泳教室などでボランティア活動にも積極的に参加。「障がいのある子供たちのサポートを続ける中で、特別支援学校で働きたいという思いが強くなりました」と振り返る。2年間で教職課程を修了し、2020年、大阪府内の特別支援学校に保健体育科教員として採用された。



▲「ミスターSASUKE」山田勝己さんと

●できないことを一緒にクリアしていく喜び

普通学校への赴任を希望することもできたが、山本さんは迷わず特別支援学校を選んだ。「知的障がいのある甥の存在や、ボランティア活動を通じて、特別支援学校で教えたいと思うようになりました。子供たちの豊かな感性や発想にも惹かれたんです」。特別支援学校では、身体障がいや発達障がい、知的障がいなど、一人ひとりの特性に向き合う必要がある。「対応する範囲はさまざま、労力が必要なケースもあります。でも、できないことを一緒に乗り越えていくのが楽しくて」。担当教科は保健体育だが、算数や社会を教えることもあれば、生活面のサポートを担うこともある。

何よりうれしいのは、子供たちの“できた”に立ち会える瞬間だ。「書けなかった字が書けるようになったり、気分のムラが安定して落ち着いてきたり。一見小さなことでも、本人にとっては大きな成長なんです」。卒業生の成長した姿を見ることも励みになっているという。

●ちょっとした工夫で子供たちが変わる

特別支援学校の教員として、山本さんが大切にしていることは2つある。

1つは、子供たちに合わせた工夫をすることだ。「話すのが苦手な子でも、気分が上がるBGMを流すと大きな声が出せたり、おもちゃのプレスレットを付けるだけでヒーロー気分になって行動できたりする。ちょっとした工夫で表情や反応が大きく変わるんです。「できない」で終わらずに、苦手なことに向き合う手伝いができたらうれしいです」。もう1つは、接し方だ。「失敗を頭ごなしに叱っても成長にはつながりません。思いやりとリスペクトを持って、前向きな言葉をかけるようにしています。子供の能力を伸ばし、背中を押せる先生になりたいですね」。

SASUKEでの活躍も、子供たちとの大切なコミュニケーションのきっかけになっている。「皆応援してくれていますし、落水した回は格好の話題になります」と笑う表情からは、子供たちとの日々を心から楽しんでいる様子が伝わってきた。



▲SASUKEのファイナリストになった山本さん



◀SASUKEのサーモンラダーに挑戦中

●子供たちとの約束！ 目指すはオリンピック

そして今、山本さんは子供たちに「チャレンジすることの大切さ」を身をもって示している。「近代五種でオリンピックを目指しているんです」。2028年ロサンゼルス大会からは種目の中にSASUKEの要素があると知り挑戦を始めたが、「実際には勝手が違いました」。思うように結果が出ない時期もあったが、現在は国内ランキングもアップしており、2つしかないオリンピック出場枠を目指して、仕事と両立しながら練習に取り組む日々だ。「1週間のトレーニングをSASUKEと近代五種とで分けています。完全オフの日はなく、何かしら体を動かしていますね。子供たちにも「挑戦する！」と宣言した以上、途中で投げ出すわけにはいかない。応援してくれる人もたくさんいますし、やり切りますよ」。

子供たちを導く理想の教員、SASUKE完全制覇、そして近代五種でのオリンピック出場という、人生の目標に邁進する山本さん。その原点には、関西大学で過ごした学生時代があると話す。「勉強も部活もボランティアも、どんなことにも、きっと意味があると思います。全てが今の仕事、夢につながっています」。これこそ、山本さんが後輩に届けたい思いだ。「今、悩んでいることや、つまらないと思うことにも向き合えば、全て力になるし、必ず得るものがある。できることは全てポジティブにチャレンジして、大学でしかできない経験をしてほしいですね」。

「勉強も部活もボランティアも、どんなことにも、きっと意味があると思います。全てが今の仕事、夢につながっています」